

三重大学は、多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させると共に、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を積極的に社会に還元します。

地域の課題を探究するならば、それが狭い研究分野の枠に収まり切るなどということは決してなく、「技術の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、環境の研究が自然へ、歴史へ、文化へ」と連なっていく。このこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり契機となります。

三重大学は、各種学問の横断的総合体として、地域との強い接着力を持ち続けます。

世界拠点になりうる分野を選択し、資源を集中化 (三重大COE)

- ▶ 炎症性血管病変による臓器障害機構の解明とその修復再生治療法の開発
- ▶ 未来エネルギー・コミュニティの成立工学：自然由来資源活用の自立分散発電システム

地域政策との協働

- ▶ みえメディカルバレープロジェクト：薬事・健康・福祉産業の振興
- ▶ ディスプレー産業の振興
- ▶ 環境・自然エネルギー産業の振興

地域の大学や研究機関との連携

- ▶ 連携協定大学である和歌山大学との共同研究：紀伊半島の社会・防災・環境研究等
- ▶ 連携大学院の設立：野菜茶業研究所、養殖研究所

アジア・パシフィック地域・大学との連携

- ▶ マレーシア・プトラ大学、タイ・チェンマイ大学等：食、健康、エネルギー、環境、防災、文化に関する研究

地域特有の問題の研究

- ▶ 安心・安全の研究：食、防災、医療
- ▶ 環境、生物資源の研究：英虞湾浄化、干潟の造成、アマモ場の造成、機能性食品
- ▶ 地域医療の研究：僻地医療、家庭医療、予防医学
- ▶ 東紀州文化研究：熊野古道、尾鷲組大庄屋文書
- ▶ NPO地域開発研究機構による調査研究

三重大学COEプロジェクト

三重大学では研究の推進を図るため、研究機構を通じて研究戦略を企画し、研究支援及び研究評価を行っています。そのひとつとして、世界拠点となりうる研究分野を選択し、研究資源を集中化する研究支援事業、学内公募型「三重大学COEプロジェクト」は、三重大学の研究を全学的視点から戦略的方策をもって飛躍的に推進することを目的に、世界に誇れるトップレベルの研究の他、国内トップレベルの研究などを支援しています。このほか、若手研究者へは「三重大学若手研究プロジェクト」研究支援制度を実施しています。

共同研究

民間等との共同研究や受託研究に加えて、講座・学部・研究科を超えた学際的共同研究、国内大学間共同研究、国際的な共同研究など三重大学の研究の特色を生かした幅広い共同研究が行われています。特に地方公共団体や地域企業との共同研究は活発に行われ、地域中小企業との共同研究においては全国上位の実績を挙げており、地域再生に大きく貢献しています。大学の持つ研究シーズと民間企業等のニーズのマッチングによる民間企業等との共同研究の発掘には、創造開発研究センター、(株)三重大TLOや各部局に配置された産学官連携コーディネーターが活躍しています。また、共同研究の強力な推進、研究成果の活用、地域貢献、人材育成と交流などを目的とした産学連携に関する包括協定が、いくつかの企業あるいは銀行と三重大学の間で結ばれています。

知的財産創出とベンチャー・ビジネス

三重大学独自の知的財産の拡大を図ることを目的として知的財産統括室が設置され、知的財産に係る企画、啓発、教育や知的財産の創出と特許権の出願、管理、活用等の業務を一元的に推進しています。特許化された知的財産は、(株)三重大TLOによって民間へ技術移転が図られています。

また、大学院においてベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を推進するとともに、高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成することを目的として、三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーが設置され、ここには学生が運営するベンチャー・クラブもあります。このほか、大学発の研究シーズをもとに起業を目指している、あるいは起業まもないグループがキャンパス・インキュベータに入居して活動しています。

全学シーズ集の提供・公開

三重大学の知的財産(研究成果)を活用して、地域産業との共同研究の活性化を図り、地域との社会連携を推進するため、三重大学教員約500人の研究シーズを、学外者に向けて分かりやすく解説するとともに、教員の研究への熱い思いもこめた「三重大学全学シーズ集」を本学ホームページで公開しています。

([http:// www.mie-u.ac.jp/cooperation.html](http://www.mie-u.ac.jp/cooperation.html))

